

「未来の担い手育成プログラム研究指定校」事業報告書（3年次）

1 学校名等

学 校 名	亀岡市立 亀岡中学校				校長名	金田 浩樹
研 究 主 題	論理的思考力を活用した課題解決型学習 (認知能力・非認知能力の一体的な育成)					
研究の目的	課題解決型学習を通して「正解のない問い」の解決を目指し、他者との協働やコミュニケーション能力の向上を図る。 また、取組や研究の成果を京都府や亀岡市の活性化につなげることで、自己肯定感、自己有用感を高める。					
学 年	1 年	2 年	3 年	特別支援	合 計	教職員数 ※校長・教頭を含む
学 級 数	4	5	5	7	21	42名
生 徒 数	157	175	172	36	540	+養護教諭 1名 事務 2名

2 研究校の概要

(生徒の実態、学力状況(分析)、研究体制等)

生徒たちは大変落ち着いた様子で学校生活、学習、学校行事などに取り組んでいる。

今年度も、この課題解決型の学習（以下 PBL と表記）を通して「正解のない問い」の解決に向かい、他者との協働やコミュニケーション能力の向上を目指し取り組んだ。

また本校の取組や研究の成果が京都府や自分たちの住む「まち（亀岡市）」の活性化につながることで自己肯定感、自己有用感を高める手立てになると考えた。

3 主な研究活動

6 月 28 日（金）株式会社京都パープルサンガからの課題提起

株式会社京都パープルサンガ ホームタウン推進課 藤田太朗様より、「地元プロスポーツクラブとして、地域（亀岡市）の皆様に愛されるクラブとなるにはどのような活動をすればよいでしょうか」という課題が提案された。

8 月 7 日（水）～ 京都サンガ F.C. 試合観戦 観戦を元にレポート作成

8 月 7 日名古屋グランパスエイト戦に 2 年生を招待していただいた。試合観戦をもとに、夏休みの課題でサンガレポートを作成した。それぞれが体験で感じたこと、サンガについて調べたことについて keynote にまとめた。2 学期からは各グループでレポートを持ち寄り、国語科の授業で壁新聞の作成した。

10 月 23 日（水）・11 月 1 日（金）愛されるクラブとなるための企画

愛されるクラブとなるためにどのような企画が必要か、実現させるためにはどのような活動をすればよいかを考えた。ターゲット層を設定し、その企画を実現したらどのような効果があるか仮説を立て検証を行った。企画のゴールイメージを想像し、様々な企画を練った。

11月7日(木)・8日(金) 説得力のあるプレゼンにつなげるには…

京都明德高校から中谷俊雄先生に来ていただき、1クラスずつ指導をしていただいた。企画の立案から説得力のあるプレゼンにつなげるためには、どのような視点で考え、どのような資料の準備をすれば良いのか、アドバイスをいただいた。

11月2日(水) プレゼン練習 プレゼンに必要なことは何か…



認定キャリア教育コーディネーターの矢野昌則氏に来ていただき、1クラスずつ指導をしていただいた。プレゼンのコツや、プレゼンで大切にすべきことを教えていただいた。

12月11日(水) 学級発表会でプレゼン!

これまでの学習で作り上げた企画を学級発表会でプレゼンした。どのクラス、どのグループも自分たちの企画が聞いている人たちに伝わるように熱心にプレゼンした。京都明德高校の中谷先生にも参観していただいた。

12月18日(水) 学年発表会



各クラスから選ばれた代表が発表した。当日は審査員として、【京都パープルサンガ F.C ホームタウン推進課 課長 石井敬己 様・藤田太郎 様】【京都府教育庁 指導部 学校教育課指導主事 藤井達也 様】【南丹教育局指導主事 高橋陽子 様】【亀岡市教育委員会指導主事 田中清貴 様】【京都明德高校 教諭 中谷俊雄 様】をお招きし、生徒たちが考えた企画を評価していただいた。

令和7年2月15日(土) きょうと明日へのチャレンジコンテスト



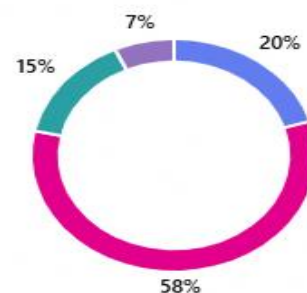
「きょうと明日へのチャレンジコンテスト」(京都府教育委員会主催)に参加した。「京都サンガ F.C.がより地域に愛されるチームになるには」という課題に対して「写真でサンガと家族の思い出を残すことができれば、サンガが身近なチームになり愛されるのではないか」という仮説をたてて「フォトブースの企画」を提案した。

4 今年度の研究の成果と検証

以下は学年発表会后（12月）、学年生徒に行ったアンケート結果である。【一部抜粋】

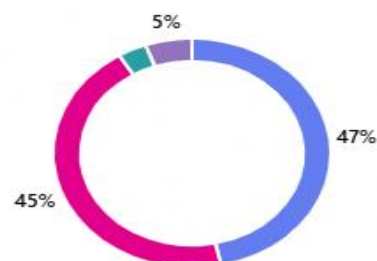
3. 自分の考えた道すじを他の人の視点からも考えて、見つめ直すほうだ。（0 点数）

● 当てはまる	30
● どちらかといえば、当てはまる	86
● どちらかといえば、当てはまらない	22
● 当てはまらない	10



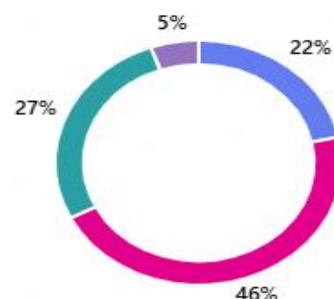
8. 自分の考えたことよりも、相手の方がよい考えを持っていると感じたときは、相手の考えを取り入れるほうだ。（0 点数）

● 当てはまる	69
● どちらかといえば、当てはまる	66
● どちらかといえば、当てはまらない	5
● 当てはまらない	8



14. ほかの教科の授業で学んだことであっても、教科に関係なく授業中の活動で活かしている。（0 点数）

● 当てはまる	32
● どちらかといえば、当てはまらない	68
● どちらかといえば、当てはまる	40
● 当てはまらない	8



15. 課題解決型の学習（PBL）の取組をととして、どんな力がついたと思いますか。記述してください。（0 点数）

134
応答

最新の回答
 "コミュニケーション力がつけたなと思っている"
 "課題を解決するための対策を立てるなどの力"
 "相手の意見を聞いたり自分の意見を相手に言う力"
 ...

17回答者（13%）この質問に 考える力回答しました。

プレゼンテーション能力 解決方法
 プレゼンテーションを作る力 物事
調べる力
 計画を立てる力 話し合う力

課題を解決
考える力
 自分たち

プレゼン能力 仕方
 こ 相手 工夫 人前 回結力
 仲間 アイデア
 課題解決

16. 今回の取組を中学3年生で、どのように生かしていきたいですか。記述してください。(0 点数)

[詳細情報](#)

128

応答

最新の回答

"友達をたくさん作れるようにしたい"

"課題があるときに自分で解決するなどして生かしていきたいと思いました"

"仲間と協力しやう事"

...

41回答者 (32%) この質問に き回答しました。



【生徒】 アンケート結果を振り返って

学年の85%近くが自分の考えと仲間の考えを比べ、より良い考えを取り入れることの大切さ、自分の考えた道筋を他の人の視点から考えて見つめ直すことの大切さを理解することができた。

68%(100人/134人)が 他の教科の授業で学んだことを教科に関係なく授業中の活動に生かすことができていると肯定的に捉えている。

この取組を通して、「正解のない問い」に向き合い、最適解を導き出すための経験を通して、仲間と協力して取り組む力、考える力、発信する(プレゼンテーション)力を身につけることができた。

【教職員】

2年主任を中心に外部機関と積極的に連携を行い、生徒に色々な角度から学習をさせることができた。また色々なアイデアを取り入れながら、生徒とともに楽しみながら学ぶ学年教師の姿が見られた。

3年目にして地元企業が株式会社京都パープルサンガと学校との架け橋になってくださり、地域の協力を得ながら取組を進めることができた。

5 今年度の課題

学校から綿密に連携ができていなかった側面が課題ではあるが、プレゼンを作成する途中、生徒からの質問を集約し、株式会社京都パープルサンガに回答を求めたが、回答をいただけなかった。

3年間の取組を通して感じることもあるが、生徒達が創ったアイデアがどこまで社内でも共有されているかがわからなかった。

生徒もこの学習を一生懸命取り組んだので、連携企業からの評価(アイデアが採用されなかったとしても、選手や会社からのお褒めの言葉)がいただけたら、生徒や保護者は株式会社京都パープルサンガを「愛する」気持ちになるのではないかなと思う。

6 研究成果の活用について

3年の取組期間を終え、多くの教職員が課題解決型の学習の手法を経験することができた。

学校全体を見渡すと「課題解決型の学習」を取り入れた教科指導を行っている様子も見られた。

教科指導や特別活動(行事や生徒会活動)でこの手法を取り入れることでより高い教育効果が得られると思う。今後も教職員の共通理解を図り、教育活動を進めていきたい。